

# 定期作況報告

(第6号 平成11年10月20日現在)  
北海道立上川農業試験場

## 1. 気象概況

9月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.2℃、0.6℃高かった。降水量は平年より23mm少なく、平年対比64%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より9時間多く、平年対比122%であった。

10月上旬：最高気温は平年並で最低気温は平年より0.9℃低かった。降水量は平年より13mm多く、平年対比135%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より1.9時間多く、平年対比105%であった。

10月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.4℃、2.6℃低かった。降水量は平年より1mm少なく、平年対比97%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より1.1時間多く、平年対比103%であった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	19.6	18.4	1.2	15.9	15.9	0	13.2	14.6	▲1.4	16.2	16.3	▲0.1
最低気温(℃)	9.1	8.5	0.6	4.7	5.6	▲0.9	1.7	4.3	▲2.6	5.2	6.1	▲0.9
平均気温(℃)	14.3	13.0	1.3	9.7	10.4	▲0.7	7.6	9.2	▲1.6	10.5	10.9	▲0.4
降水量(mm)	41	64	▲23	50	37	13	31	32	▲1	122	133	▲11
降水日数(日)	4	6	▲2	3	5	▲2	6	5	1	13	16	▲3
日照時間(h)	50.2	41.2	9.0	40.9	39.0	1.9	35.7	34.6	1.1	126.8	114.8	12.0

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作況

### 1) 水稻の部

作況 平年並

事由：

籾数：穂数は平年より多く、一穂籾数は平年並かやや少なく、㎡当たり籾数(㎡当たり穂数×一穂籾数)は平年より多かった。

稔実歩合・稔実籾数：稔実歩合は㎡当たり籾数の多かった「ゆきひかり」中苗を除き平年より高かった。㎡当たり稔実籾数(㎡当たり籾数×稔実歩合)は平年より多かった。

登熟歩合・㎡当たり登熟籾数：出穂後30日目の登熟歩合が平年を大きく上回ったが、成熟期の登熟歩合は「ゆきまる」中苗を除き平年並かやや低かった。㎡当たり登熟籾数は平年並か平年より多かった(平年対比101~110%)。

精玄米千粒重：各品種・苗ともほぼ平年並であった(平年対比100~104%)。

精玄米重：粒厚1.90mm以上の収量は「イシカリ」中苗が平年対比104%であった他は、12~59kg/10a少なく、平年対比90~98%であった。

以上、籾数などの収量構成要素は平年を上回ったが、作況圃場では褐変籾の発生が多かったため、登熟歩合が平年より低く、また屑米歩合が平年より高かった。特に、「ゆきひかり」中苗は籾数過多となり、成熟期前になびき倒伏が見られた。

収量の平年対比は単純平均が97であるが、平年値は前7年から高収年・低収年を除いた5か年の平均値を用いるのが一般的であり、比布圃場のデータは過去5か年のみであるため、特に多収であった平成10年度を除くと単純平均が99となる。収量の低かった「ゆきひかり」も含んだ平均値であるため、本年は平年並とするのが妥当と考えられる。

表2 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	㎡当り穂数 (本)				一穂粒数 (粒)				㎡当り粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	743	688	55	108	47.6	46.8	0.8	102	35.4	32.8	2.6	108
ゆきひかり 中苗	723	593	130	122	59.1	63.0	▲3.9	94	42.7	36.6	6.1	117
イシカリ 中苗	688	604	84	114	52.6	56.8	▲4.2	93	36.2	33.4	2.8	108
ゆきまる 中苗	703	642	61	110	51.3	53.6	▲2.3	96	36.1	34.2	1.9	106
きらら397 成苗	769	710	59	108	47.2	46.0	1.2	103	36.3	32.6	3.7	111
品 種 苗	稔実歩合 (%)				㎡当稔実粒数(×1000粒)				登熟歩合 (%)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	91.6	91.6	0.0	100	32.4	30.1	2.3	108	77.5	79.0	▲1.5	98
ゆきひかり 中苗	88.8	91.9	▲3.1	97	37.9	33.6	4.3	113	64.3	72.7	▲8.4	88
イシカリ 中苗	91.8	85.4	6.4	107	33.2	28.5	4.7	117	71.3	76.3	▲5.0	93
ゆきまる 中苗	94.4	92.6	1.8	102	34.1	31.7	2.4	108	83.0	79.5	3.5	104
きらら397 成苗	92.0	84.1	7.9	109	33.4	29.3	4.1	114	77.9	78.8	▲0.9	99
品 種 苗	㎡当登熟粒数(×1000粒)				精玄米千粒重 (g)							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	27.4	25.9	1.5	106	22.6	22.4	0.2	101				
ゆきひかり 中苗	27.5	26.6	0.9	103	21.2	20.8	0.4	102				
イシカリ 中苗	25.8	25.5	0.3	101	22.4	22.3	0.1	100				
ゆきまる 中苗	30.0	27.2	2.8	110	21.9	21.1	0.8	104				
きらら397 成苗	28.3	25.7	2.6	110	22.7	22.5	0.2	101				

注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。

2) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

表3 収量および屑米歩合

品 種 苗	精玄米重(kg/10a)						屑米歩合(%)			
	本年	平年1	差	比(%)	平年2	差	比(%)	本年	平年1	差
きらら397 中苗	575	602	▲27	96	587	▲12	98	5.7	2.8	2.9
ゆきひかり 中苗	532	591	▲59	90	576	▲44	92	7.7	9.6	▲1.9
イシカリ 中苗	598	573	25	104	571	27	105	5.6	4.2	1.4
ゆきまる 中苗	575	587	▲12	98	576	▲1	100	5.3	4.9	0.4
きらら397 成苗	583	596	▲13	98	589	▲6	99	6.6	4.5	2.1

注1) 平年1は平成6～10年の5か年の平均値。

2) 平年2は平成6～9年の4か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2) 畑作の部

(1) 秋播小麦 作況： やや良

事由： 播種は平年並の9月10日に行った。出芽は良好で、その後の生育も順調に進み、草丈はほぼ平年並で、葉数、茎数はともに平年を上回っている。

したがって、目下の作況はやや良である。

表1 10月20日の秋播小麦の生育

品 種 名	播 種 期 (月日)			草 丈 (cm)			茎 数 (本/m <sup>2</sup> )		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	9.10	9.10	0	25.1	25.8	▲0.7	1322	1160	162
	9.10	9.10	0	24.7	24.6	0.1	1571	1236	335

品 種 名	葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	5.5	5.3	0.2
	6.1	5.5	0.6

注1) 「タイセツコムギ」の平年値は、前6か年平均値。

「ホクシン」の平年値は、前5か年平均値。

2) 平成8年以降の播種量は255粒/m<sup>2</sup>。  
平成7年までの播種量は340粒/m<sup>2</sup>。

3) ▲は平年より減を示す。

(2) とうもろこし 作況： 不良

事由： 高温の影響で雌穂の登熟は進んだが、7月下旬の長雨の影響で抽糸期が抽雄期より7～12日遅れたため不稔個体割合が高く、特に「P3732」では極めて高い割合となり、乾雌穂重は平年を大きく下回った。TDN収量は、「キタユタカ」が対平年比103%とやや多収を示したが、「P3732」では不稔の影響を大きくうけ、対平年比69%と平年を大きく下回った。

したがって、作況は不良である。

表2 とうもろこしの収量

品 種 名	収 穫 時 熟 度			不 稔 個 体 割 合 (%)			乾 総 重 (kg/10a)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	黄後	黄中	-	35.0	2.4	32.6	1791	1664	127
	黄初	黄初	-	80.0	0.3	79.7	1560	1951	▲391

品 種 名	乾 雌 穂 重 (kg/10a)			総 体 の 乾 物 率 (%)			TDN 収 量 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	対 平 年 比 (%)
キタユタカ P3732	690	815	▲125	29.6	26.5	3.1	1228	1187	41	103
	185	921	▲736	28.1	27.1	1.0	957	1378	▲421	69

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) 平成10年より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) ▲は平年より減を示す。

(3) 大豆 作 況 : 平年並

事 由 : 成熟期は高温の影響で平年より11日~13日早まった。主茎長は平年より4cm~5cm短かく、主茎節数は平年よりやや少なかった。分枝数は平年より多く、着莢数は平年よりやや少なかった。子実重の対平年比は「トヨムスメ」が102%、「トヨコマチ」が99%であった。したがって、作況は平年並である。

表3 成熟期の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	9.25	10.6	△ 11	55	60	▲ 5	9.7	10.2	▲ 0.5
トヨコマチ	9.16	9.29	△ 13	58	62	▲ 4	10.4	10.5	▲ 0.1

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)			子 実 重 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	対平年比(%)
トヨムスメ	8.1	6.2	1.9	77	82	▲ 5	433	425	8	102
トヨコマチ	6.1	5.9	0.2	69	77	▲ 8	399	405	▲ 6	99

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(4) 小 豆 作 況 : 不良

事 由 : 登熟期間の高温の影響で百粒重が平年より3g軽くなったため、子実重の対平年比は「サホロショウズ」が93%、「エリモショウズ」が81%と平年を大きく下回った。屑豆率は平年より低かった。したがって、作況は不良である。

表4 小豆の収量

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	対平年比(%)
サホロショウズ	301	324	▲ 23	93
エリモショウズ	265	328	▲ 63	81

品 種 名	100粒重 (g)			屑 豆 率 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	10.7	13.8	▲ 3.1	0.4	3.3	▲ 2.9
エリモショウズ	9.3	12.3	▲ 3.0	0.4	2.6	▲ 2.2

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

(5) ばれいしょ 作 況 : やや不良

事 由 : 「農林1号」は、9月中旬以降気温が急激に下がり、生育がかんまんになったため、平年通り、10月上旬には枯凋期に達しなかった。9月上旬までの高温干ばつの影響を受け、上いも重は平年の91%と平年を下回った。でん粉価がほぼ平年並であったことから、でん粉重も平年対比92%と下回った。「男爵いも」は、枯凋期が平年より7日早い8月30日となり、上いも重も平年対比109%と上回ったが、でん粉価は低かった。  
したがって、作況はやや不良である。

表5 収穫期のばれいしょの生育、収量

品 種 名	枯凋期 (月日)			上いも重 (Kg/10a)			でん粉価 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	達せず	達せず	—	4678	5154	▲476	15.0	14.6	0.4
男爵いも	8.30	9.6	△7	4167	3811	356	12.6	14.1	▲1.5

品 種 名	でん粉重 (Kg/10a)			同 左 平 年 比	
	本 年	平 年	比 較	上いも重	でん粉重
農林1号	668	723	▲55	91	92
男爵いも	—	—	—	109	—

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

3) 栽植株数は、昨年までの3333株/10aを、本年から4444株/10aに変更した。

(6) てんさい 作 況 : 不良

事 由 : 前期までの生葉数不足の影響を受け、茎葉重は両品種とも平年を大きく下回った。根重も前期までの根周不足の影響から平年対比86%~92%にとどまった。根中糖分は平年並となったことから糖量も根重同様平年対比86%~92%となった。

したがって、作況は不良である

表6 収穫期のてんさいの生育、収量

品 種 名	茎 葉 重 (kg/10a)			根 重 (kg/10a)			根 中 糖 分 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	3130	5484	▲2354	6783	7912	▲1129	16.77	16.75	0.02
ストーク	3148	6103	▲2955	6648	7237	▲589	18.35	18.42	▲0.07

品 種 名	糖 量 (kg/10a)			平 年 比		
	本 年	平 年	比 較	根 重	根中糖分	糖 量
モノホマレ	1137	1325	▲188	86	100	86
ストーク	1219	1331	▲112	92	100	92

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前5か年平均値。

「ストーク」の平年値は、前2か年平均値。

2) ▲は平年より減を示す。